



環境配慮報告書 2026

東京エレクトロン宮城株式会社

環境についての考え方

東京エレクトロングループはTechnology for Eco Lifeのスローガンのもと、最先端の技術とサービスで、環境問題の解決を目指します。あらゆる事業活動において、環境負荷低減と地球環境保全を目指し、さらに生物多様性にも配慮した環境活動により、持続可能な社会の実現に貢献します。

環境方針

東京エレクトロングループの環境方針を以下に示します。



1. 環境目標と継続的改善

環境目標を設定し、製品ライフサイクルの環境パフォーマンスを向上させるため、環境マネジメントシステムを継続的に改善します。



2. 法令等の遵守

環境関連の法令を遵守するだけでなく、環境問題を幅広く調査し、自主基準などを制定します。



3. 製品での環境貢献

最先端技術を駆使し、環境適合型製品を開発します。顧客や取引先と連携・協力し、環境問題の未然防止と改善に努め、持続可能な社会の実現に貢献します。



4. 事業活動での環境負荷低減

事業活動における環境負荷を定量的に把握し、その低減を含む環境活動を従業員と一体となって、積極的かつ継続的におこない、汚染の予防と環境保護に努めます。



5. 社会との連携・協力

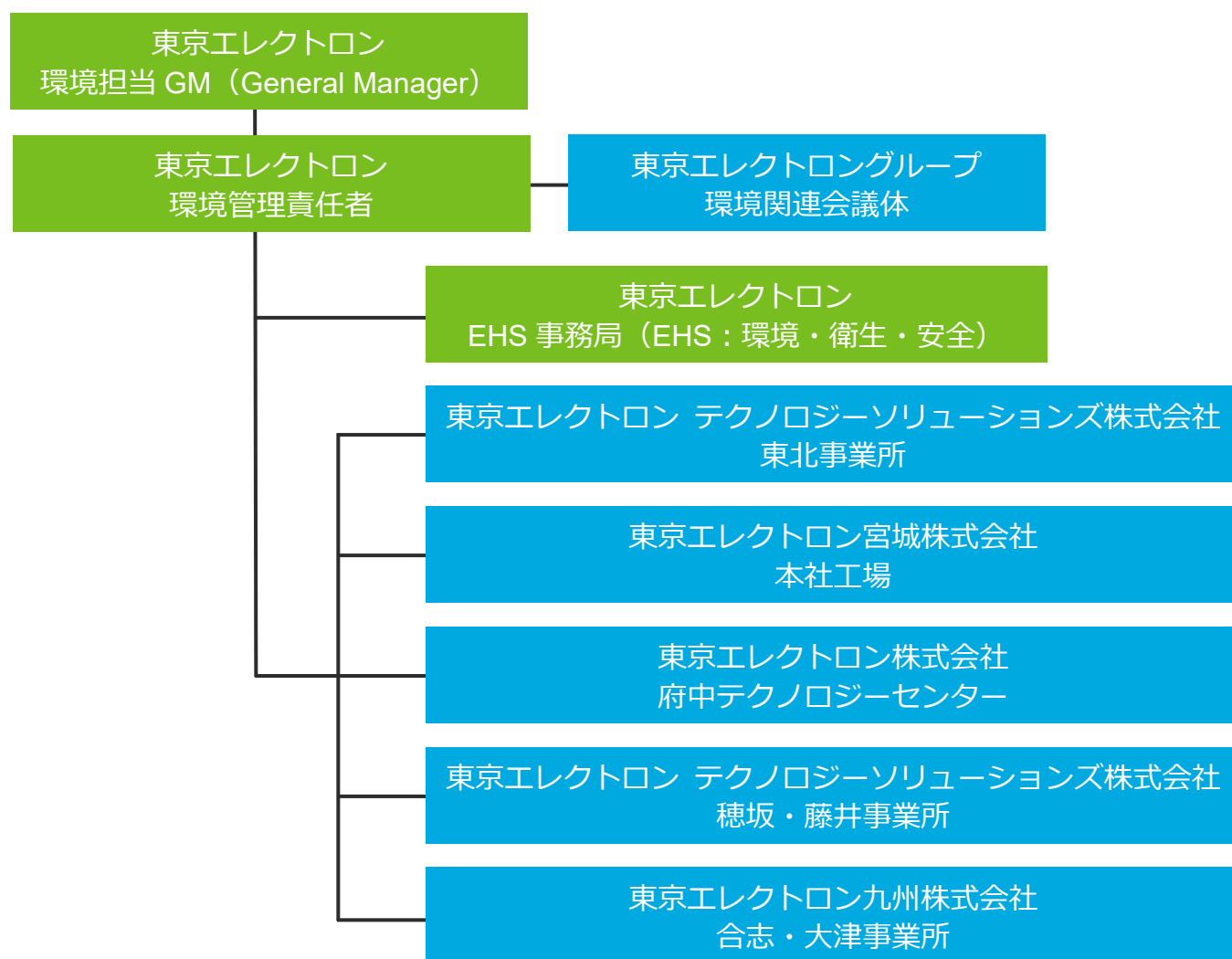
ステークホルダーとの共通理解のもと、連携・協力を推進し、その期待に適切に対応していきます。

2016年7月1日改訂

環境マネジメントシステム

ISO14001

東京エレクトロングループの国内事業所は1998年5月にISO14001の認証を取得し、2017年3月には一括認証に移行しました。これにより、下図に示す体制にて各事業所が集まって環境マネジメントシステムの対応方針を決定するとともに、グループ内で統一したフォーマットを使用した環境マネジメントシステムの運用をおこなっております。2025年度は外部機関によるISO14001の認証更新監査を受け、環境マネジメントシステムが効果的で規格に適合していると判定されました。



第三者保証

環境情報のデータ管理の精度向上や報告内容の信頼性向上のため、主な環境データ（エネルギー起源CO₂排出量、水使用量、特別管理産業廃棄物排出量など）について、第三者による保証を受けています。

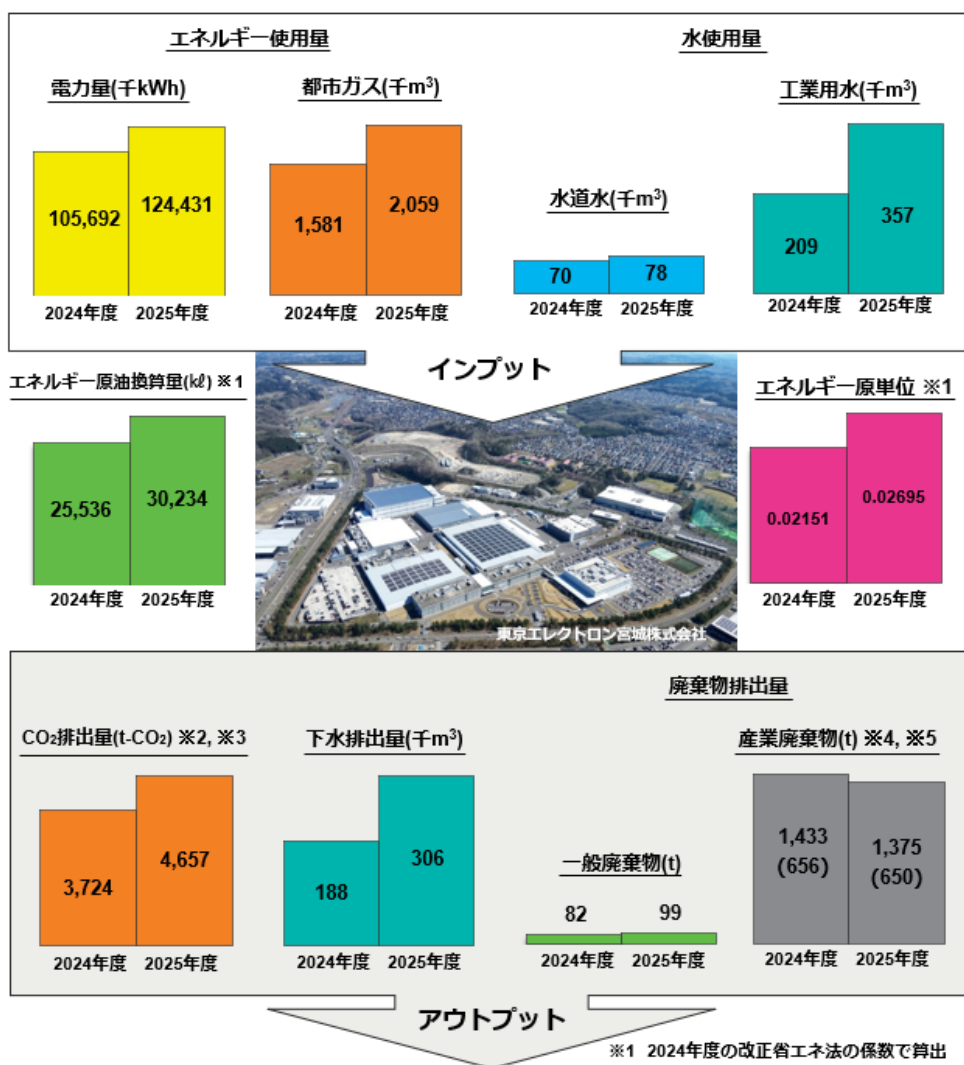
塩釜保健所によるビル管法に関わる立入検査

2025年10月30日に、建築物における衛生的環境の確保に関する法律第11条第1項に基づき、竣工した第3開発棟の立入検査がおこなわれました。立入検査による指摘事項は特にありませんでした。引き続き衛生的な管理を実施してまいります。

2025 年度 東京エレクトロン宮城 環境データ報告

2025 年度(※)の環境負荷・環境配慮についてご報告いたします。

2025 年 4 月に第 3 開発棟が竣工し、安全・品質・環境を優先とした開発はもちろん、デジタル技術活用による開発の高度化や高効率な開発オペレーションをおこなっております。次世代開発をおこなう環境の整備に向けて、新開発棟への評価機の増設をおこなったため、2024 年度に比べて消費電力量は 17.7%の増加、都市ガスの使用量は 30.2%の増加となりました。また、工業用水は新棟の立ち上げに伴い使用量が 70.8%増加となってしまいました。新棟の稼働に伴い 2025 年度の環境負荷が増加してしまいましたが、当社の掲げる 2040 年のネットゼロ目標達成させるため、これまでの CO₂ 排出量削減の取り組みをより一層加速させる事業活動をおこなってまいります。



- ※1 2024年度の改正省エネ法の係数で算出
- ※2 エネルギー起源の排出量
- ※3 調整後温室効果ガス排出量
- ※4 有価物も含み、有価物量は括弧内に記載
- ※5 2025年度産業廃棄物リサイクル率99.8%

* 対象期間 : 2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日

環境活動

東京エレクトロンの森・大和 森づくり活動

2025 年度も『みやぎの里山林協働再生支援事業』に参画し、従業員とその家族にも参加していただく形で大和町宮床の『東京エレクトロンの森』の森づくり活動を 4 月におこないました。4 月には参加者 65 名でキハダ、ヤマザクラ、キブシ、ミズキの計 25 本を植樹しました。植樹のほかに森の整備のために雑木林の除伐、遊歩道づくり、池堀りもおこないました。2017 年より大和町宮床での植樹活動を継続しておりますが、2025 年 4 月の植樹活動では過去に植樹した木が成長して花を咲かせている姿を見ることができました。



Source: TEL

東京エレクトロンの森・荒浜 森づくり活動

2025 年度も「みやぎグリーンコーストプロジェクト」に参加しました。東日本大震災で失われた海岸防災林を復興させることを目的として仙台市若林区荒浜にて第 2 回目となる植樹会を 6 月におこない、従業員とその家族にも参加いただき、95 名で今年分の 0.1ha にクロマツ 120 本を植樹しました。植樹のほかに次回植樹予定地含めた 0.2ha の除草もおこないました。2026 年度も 100 本程度の植樹を実施予定です。



Source: TEL

アマモ場再生と干潟の生き物調査

2025 年度から「宮城ブルーカーボンプロジェクト」に参加しました。東日本大震災で被災した藻場を再生し、豊かな生態系を次世代につなぐことを目的として塩竈市北浜緑地護岸にて第 1 回となるブルーカーボン・アマモ場再生を 6 月におこない、従業員とその家族 64 名に参加いただきました。アマモ移植のための粘土付けのほかに海洋汚染にかかわるプラスチックごみの回収、干潟の生き物調査をおこないました。また、本活動の一部となっている生き物調査では絶滅危惧種である「サンリクドロソコエビ」を発見し、調査した生き物の一覧を下敷きにして小学生の児童に配布しました。本活動を通じて里海学習の支援をさせていただきました。



Source: TEL

第 48 回全国育樹祭

継続して森を守り育てることの大切さを普及啓発し、活力ある森林を次の世代につなげていくことを目的とする 1977 年から毎年秋季におこなわれている全国行事が 2025 年度は宮城県で開催されました。今回協賛というかたちで参画させていただくことで本大会の 3 つの柱となっている「持続可能な森林づくりの継承」、「伝統と新技術による木材利用の発信」、「震災の教訓の伝承と新たな価値の創造」に協力させていただくことができました。

仙台ふるさとの杜再生プロジェクト

2024 年度から「みやぎグリーンコーストプロジェクト」に参画しており、この活動の一環として、「東部地域みどりの再生事業」があります。東日本大震災の津波により失われたみどりを再生すべく、仙台市企業版のふるさと納税に寄附することで 2026 年度以降海岸防災林整備予定地約 0.3ha に苗木を植えられる形になりました。

生物多様性活動 ヤギによる除草

ヤギによる敷地内の除草活動も継続しています。2022 年度から除草をおこなっているヤギに継続して来てもらい 6～7 月と 8～9 月に除草活動をおこないました。



Source: TEL

食廃油のバイオディーゼル燃料化

社内食堂から排出された廃油をバイオディーゼル燃料（BDF）の原料とするために提供する活動も継続しています。2025年度は食堂廃油3,402ℓを提供しました。2025年4月に宮城技術革新センター内に厨房機器を導入し食堂をリニューアルオープンしたことによって食堂から排出される廃油が増加し、昨年度比1.5倍の廃油をBDF化した形となりました。

デマンドレスポンス

2025年度は電力会社からデマンドレスポンスの発動要請がなかったものの、電力の需給バランスを調整するアグリゲーターと契約を締結することで受電電力削減に寄与する体制となっておりました。2026年度も引き続き発動要請時の受電電力削減に協力させていただく予定です。

産業廃棄物業者の視察

当社から排出される産業廃棄物の収集運搬と処分の委託を契約しているすべての業者の事業場や処分場の状況を確認するための視察をおこないました。産業廃棄物の処理業者から産業廃棄物がどのような設備で処理され、どのようにリサイクルされているか説明をしてもらい、当社から排出された産業廃棄物が適正に処分されていることを確認することができました。